古民家に住み、地域を愛する。

昨年、地域おこし協力隊として都留市に移り住み、市内の古民家（空き家）で生活をしながら、農業をはじめとした環境とのかかわりで地域活性化に努める長谷美奈さんと河野格さん、そして、お二人の所属する「ＮＰＯ法人都留市環境フォーラム」の理事長である加藤大吾さんの３名に、長谷さんのお宅でお話を伺いました。

■写真右から、加藤大吾さん、河野格さん、長谷美奈さん。加藤さんは東京から、河野さんは埼玉から、長谷さんは静岡からそれぞれ移住されてきました。

現在、市では人口減に対する事業として、「空き家バンク」に力を入れていこうと考えています。この事業についてはいかがでしょうか。

加藤さん　市の「空き家バンク」の取り組みは素晴らしいと思います。私自身、都留市に移り住んできて、家を建て、地域の方と交流を深めてきました。最近では市内に知り合いがかなり増えましたので、そういったツテを活用して、東京の知り合いで「田舎暮らし」をしてみたいという人に家を紹介しています。現在、６名ほど市内の民家を借りて住んでいます。

加藤さんが地域に溶け込むキッカケというのは何かあったんでしょうか。

加藤さん　私が知り合いもいない都留市に移り住んできて、地域に入り込むきっかけとなったのは、地元消防団への加入です。また、自治会にもすぐ加入しました。これによって、地域の方とお酒を飲みながらいろいろな話をする機会に恵まれて、地域の方々ともコミュニケーションがとれるようになりました。農地についても、こういう機会で地域の方に依頼し、借りられるようになりました。

長谷さんや河野さんは？

長谷さん　私も自治会に加入しました。非常に地域の方にはよくしていただいて、大変住みやすいまちだと思います。地域とのつながりが増えたことでかなりなじんできました。この家を使って、都留文科大学の外国からの留学生のホームステイもやりました。

河野さん　やはり、広報に取り上げていただいたことが大きかったと思います。「広報見たよ。載ってたねえ」といった話から、いろいろとつきあいも広がりました。

「空き家バンク」の事業は、もう始めてから1年ほど経過しているんですが、まだ空き家の登録が少ない状況です。なにか打開策などありましたら…

加藤さん　自分自身が知り合いに空き家などを紹介した経験から、貸す側には「壊れている所があって、直さないと貸せない。でも、直すのが大変」という気持ちがある方が多いようです。しかし、私の知り合いなどは、「借りてから自分で直すから借りたい」という人がほとんどです。借りる側は「空き家」を借りるのだから、少々そういった部分があるのは理解していると思います。こういう部分の解消を目指していけば、登録も増えるのではないでしょうか。

河野さん　僕もそうでした。日曜大工の様な感じで、修理しながら住むというのがいいということもありますね。

なるほど。では逆に、他地域から都留へ転入してくる側には、どんな心構えが必要でしょうか。

加藤さん　やはり、移住ですから、以前住んでいた場所とは、決まり事などで違う部分があります。「やりにくいな」と感じることもあるかもしれません。ですから、細かいことを気にしないようなおおらかな気持ちを持つことが大事だと思います。移住には、まさに「鈍感力」が必要だと思います。

当日はこのほかにも「空き家バンク」をうまく進めるためのアイデアなどもいろいろとお話をいただきました。

話をしているうちに、雪が降ってきましたが、途中で長谷さん宅を訪ねてきた高見さん（同じく移住者です。写真左）も加え、縁側で記念撮影をしました。ありがとうございました！